

ACT(包括型地域生活支援)が実践するリカバリ、ストレングス、パーソンセンタードケアを取り入れた支援の体験型ワークショップ

○角谷圭太郎¹⁾、中島 大輔¹⁾、別宗 利哉¹⁾、近田真美子²⁾

1)GENESIS株式会社 G-ACT金沢、2)福井医療大学 保健医療学部 看護学科

精神科医療において、従来の問題解決型のアプローチに代わり、リカバリ(回復)、ストレングス(強み)、そしてパーソンセンタードケア(個別化された支援)といった新しいケアの理念が注目されています。これらのアプローチは、当事者一人ひとりの強みを活かし、当事者本人の思いや希望を尊重した支援を行うことで、より良い生活の実現を目指すものです。本ワークショップでは、包括型地域生活支援チーム(ACT: Assertive Community Treatment)の実践を通じて、これらの新しい理念をどのように具体的なケアプランに反映させるかを体験していただきます。ACTは、重度の精神疾患を抱える方々を対象に、多職種チームが一体となって包括的かつ継続的な支援を提供することを特徴としています。プログラムは、グループワークと講義を組み合わせた構成とし、以下の内容を中心に展開します。第一部ではケーススタディの実践をグループワークで行います。ワークショップ参加者は、架空の利用者ケースをもとに、これまでの問題解決志向でのプランニングが、ストレングスを重視した視点でのアセスメントを取り入れることでどのように変化するかをまずは体験を通して実感してもらいます。ケースには、多様な背景やニーズを持つ設定が含まれており、個別性の重要性を体感できます。第二部では理論的背景の概説として、目指すところは完全な疾患からの治癒ではなく、当事者がその人らしさを取り戻すことを目的と

しているというリカバリモデルの概念、利用者の能力やリソースを発見し、それを活用するストレングスの視点、支援の監督者は専門家ではなく当事者本人であるというパーソンセンタードケアの重要性について解説していきます。フィードバックセッションでは、参加者間で相互に意見交換を行いながら、各プランの強みや改善点を分析することで、現場適用に向けた視点を深めます。これにより、参加者は実践における課題と解決策を共有し、ACTチームが支援を行う上で大切にしている理念であるリカバリ、ストレングス、パーソンセンタードケアの効果的な運用法を学ぶことが期待できます。本ワークショップを通じ、参加者は従来型アプローチから脱却し、対象者の「可能性」に焦点を当てた新たなケアの形を体験的に習得できます。また、これにより、当事者が地域での生活を継続していくための支援体制の構築や、対象者自身が自己決定を尊重された生活を送るための具体的な手法を身につけることが期待されます。本ワークショップでの取り組みは、精神科医療の質向上に寄与し、より包括的で人間中心の支援文化を醸成する一助となることを目指します。なお、倫理的配慮として、参加者間の意見交換などの討議の内容は、本ワークショップ内だけの取り扱いとさせていただきます。ご理解とご協力の程、よろしくお願いいたします。